



たまねぎの ネギアザミウマ対策について



北海道病害虫防除所の注意報（7月4日）では、「たまねぎ予察ほ場」におけるネギアザミウマ（スリップス）の寄生虫数が平年よりやや高めに推移しており、高温の天候が続くと急激に増加する危険性があると発表しています。このため薬剤の散布適期を逸することのないように、散布間隔に注意し適切な防除を心がけましょう。また、合成ピレスロイド剤に抵抗性のネギアザミウマが確認されているので、薬剤選択にあたっては「病害虫防除及び除草剤使用ガイドブック」を参考にしてください。

たまねぎのネギアザミウマ・アザミウマ類に登録のある農薬の一例

「病害虫防除及び除草剤使用ガイドブック」より抜粋（合成ピレスロイド剤を除く）

薬剤名	系統名	倍率	使用時期	回数	浸透移行性※
トクチオン乳剤	有機リン系	1000倍	収穫7日前	4回	△
リーフガード 顆粒水和剤	ネライストキシン系	1500倍	収穫3日前	2回	○
ディアナSC	マクロライド系 (スピノシン)	2500~5000倍	収穫前日	2回	○
ランネート45DF	カーバメート系	1000~2000倍	収穫7日前	4回	○
モスピラン 顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	2000倍	収穫7日前	3回	○

※ 浸透移行性 ○：認められる、△：認められるが弱い、×：認められない



効果的な防除のための ポイント

牧草や小麦などとの混作地域では、地域の農業者が刈り取り時期の情報を共有して、防除を計画したり、農薬の種類や防除のタイミングを合わせるなどにより、効果的な防除が可能となります。

ネギアザミウマ被害軽減のため、地域で声を掛け合いましょう。



撮影：石狩農業改良普及センター江別分室

問い合わせ先

札幌市農業支援センター地域支援係

Tel.787-2220